



特集 勝負師達の秋。

- 10 シマノジャパンカップ2005全国大会
- 20 NEO-HERA 2005 【第五戦<最終戦>椎の木湖】
- 28 マルキュークラブ対抗選手権大会

釣り場割引クーポン券

野田幸手園 椎の木湖 清遊湖 谷和原大沼
 隼人大池 上尾園 F.A吉羽園 谷養魚場
 将監 柳生FP 筑波白水湖 泉壇 逆井HC
 友部湯崎湖 水藻FC 甲南への池
 三和新池 狭山HC 新座LC 川越FC
 府中HC 当麻池 多賀釣池 芦田湖水光園
 鳥羽井沼 朝日池 大上への池 田島池
 霧の沼 清川つくしFC 小川つり堀園
 三名湖・舟宿 光月 千代田湖・舟宿 千和
 西湖・釣舟 白根 西湖・釣り宿 丸美
 西湖・釣り宿 青木ヶ原

●今月の表紙●
 angler: 石井旭舟
 field: 椎の木湖
 photo: 本誌・里
 layout: 本誌・里

COLOR (カラー)

- 34 名手・石井旭舟がいく、へら鮒出合い旅… へらぶな浪漫街道
《第三十五回》静岡県・野守の池
- 40 小池忠教 激釣大全
《第九回》今年の例会を振り返る
- 46 上州屋&VARIVASペアへら鮒釣り大会
- 49 杉山達也のSPLASH BEAT III
《最終回》西田一知登場。ベレ田&ベレ底怒濤の競演! 筑波流源湖
- ★AREA REPORT
 58,66 円良田湖(埼玉県) 本誌・伊藤洋一
 60,68 河北潟(石川県) 山本一朗
 61,69 朝日池(岐阜県) 後藤 誠
 62,70 当麻池(奈良県) 前田誠志
 63,71 本庄池(福岡県) 河口正伸
- 134 竹とともに生きる。
《第27回》二代目「師光」 小島一誠
- 137 戸張 誠 野釣り道場
《最終回》【豊英湖・本湖<竹ヤブ>】
- 143 棚網 久 あなたの夢を叶えます。
「ズバリ、トーナメントで優勝!」 その2
がまかつへらぶなチーム対抗戦 東日本大会優勝を目指せ!
ドリーマー:本郷友康さん 釣り場:野田幸手園
- 152 吉川ひとみの「へらってヤバイわっ!!」
《最終回》さよならひとピーススペシャル!
- 156 稲毛師匠と編集部諸が行く、ODEKO危険度120%
《最終回》三野輪池、藤井川ダム(茨城県内原町~常北町)
- 194 岡田 清 Deep Side Angle
《Vol.26》【奇跡の爆釣両ダンゴ】 さくら湖(千葉県)
- 203 北川穂積の全国野釣り行脚
《最終回》加古川(兵庫県)
- 206 釣果予想クイズ
- 208 フィッシングレディ
《今月のレディ》廣木智代さん 椎の木湖(埼玉県)

MONOCHROME (モノクロ)

- 72 管理釣り場、釣り堀に朗報! 水質を浄化するフォームジェット
- 76 へら鮒釣り 超基本講座
《第12回》新べらスペシャル(管理釣り場編&野釣り編)
- 83 平成17年度 全放協・日研 放流日程表
- 88 あらいしのぶの なぜなぜ しのちゃん
《最終回》「しのちゃん、バーベキューでさよならパーティー!!」
釣り場:霧の沼(茨城県八郷町)
- 92 トーナメンター小林恭之が挑む! 竿頭までぶっ飛ばせ!!
《最終回》マルキュークラブ対抗へら鮒釣り選手権大会
関東代表決定戦 谷和原大沼
- 99 江成公隆のトーナメンター、復活への道。
《Vol.42》後の祭り
- 106 そんなモジリにダマされて… 天野正由
《最終回》秘密のポイントばらしちゃおSP(相模川~鎌北湖)
- 110 水辺のプラネタリウム 吉本亜土
《今月の星空》「惨名湖」
- 115 どやさー 今月の釣り場 西田美明
《最終回》「釣り一筋! in 三川IFP」
- 118 最狂へら戦士養成所“鮒の穴” 漢タカハシ
《第三十三話》【海外遠征SP。幻の蒼い巨大手長エビを釣り上げる!! in 台湾】 後編
- 122 母なる湖… 琵琶湖べらを釣れ! 南 元彦
《第8回》最近の琵琶湖はどうなってるの? 大同川・福堂
- 126 野田幸手園新聞
- 162 ワクワク管理釣り場情報
- 171 小売店情報
- ★へら鮒BOX
 177 里ちゃんの新米編集長雑記
 178 情報発信基地
 180 ボイス
 186 コラム『へら狂おやじと呼ばないで』 白石和弘
 187 コラム『日研だより』 日研広報部長・遠藤克己
 188 コラム『日々是、勉強!』 ホワイト
 189 コラム『紀州“想いの竹”のものがたり』 中塚伸行
 190 プレゼント発表
 191 広告索引
 192 編集後記

STAFF

●Producer
根本百合子

●Editor in chief
田中里史

●Editor
大場勝良
諸富一秋
伊藤小百合
伊藤洋一

●Planner
〈オフィス・えふ〉
藤原 肇



この物語は、
栄光、そして挫折を味わい、
今、再び這い上がろうとする一人の男の人間ドラマである。

江成公隆の

トーナメント、 復活への道。

text and photo by Kimitaka Ehari and Satoshi Tanaka
業界初、Web運動企画！～のバスが更新中！ (URL) <http://hesar.yokohamaturumi.net>

「一歩進んで二歩下がる!?!」

〈Vol.42〉

後の祭り



10月15日、江成は「ダイワへらマスターズ」東日本予選に出場した。
何年ぶりのメジャートーナメント予選、である。
そして、見事に一回戦で散る。
以前は「通るのが当たり前」だった予選。
一回戦で惨敗を喫した江成は、何を思う———？

by 里ちん

妄想20%。

僕は厄病神かもしれない。そう感じてしまっただけに、僕の配属先にはトラブルが多い。春の異動で、僕は前職場より遥かに環境が整った職場に配属になったと書いたが、ここへ来てやはり一人欠員となっていました。もっともこの欠員は突発的なトラブルによるものであり、短期的な問題と言えるので、前職場よりはまだまだマシではある。しかしどんなに短期と言えど、残ったメンバーは休みを返上してやりくりしなければ現場は回らない。

「江成、今度の土曜日用事あるのか？」
「ええ、そのために希望出して休み取ったんですけど…」

「まさかとは思っけど、釣りとかじゃないよな？」

「ウソついてバシレもしようがないから言いますが、おもしろい『釣り』でございます。」

10月15日の土曜日に行われるのはダイワへらマスターズの予選だった。2カ月にわたって「出る」と告知してきたこのイベントに、僕は参加しないわけにはいかなかった。が、このままブツギれば休み明けの空気が気ましくなってしまう。僕は仕方なく、連載のこや年に一度のトーナメントであることを説明した。すると、

「凄いな！ 全国大会かあ！ 行ってこい！」

「いや、だから予選ですってば…」

「いいねえ、そついうの！ 人生何か一つないとなっ！ で、その鮎は泥臭くないのか？」

「食べないんですってばー！」

13日の晩、カッパビ君から「ジュンビィおっけー？」というメールが届いた。僕は「まだ。仕掛けは席に着いてから。ハリは釣りながら結わきます」と、とぼけた返事をしてきた。欠けた一人分のしわ寄せがすでに出ていたこの日も、帰宅は12時を回った。

慌ただしく流れていく日常。この不景気な世の中で忙しいのは結構なことなのだが、現在の

職についてからいつも何かに追われ、また、明日はどんなトラブルが起きるのかという不安が消えない。今までの僕なら「釣りに行くのもカッパルイ」と思ってしまうところだが、今回は違った。「月イチ釣り師」としての覚悟がそうさせたのか、楽しみで仕方がなかったのだ。好きな事をしに出かける以上、これが本来の姿だし、休日に残される家族を思えば、断然正しい。マスターズ前日の14日の晩。帰宅は日付付こそ変わらなかったが、普段よりは遅かった。仕掛けは作らないとしても、ウドンだけは仕込まなければならぬ。僕は眠い目を擦りながら、台所に立った。10年モノのウドン絞りにアツアツのウドンを流し込み、ハンドルを装着して圧をかけ始めたその時、アクシデント発生。「ハキヤッ」と筒が割れてしまったのだ。幸いネジ山半分を残して割れたので、何とか絞り終えることができたが、予備の2回目では完全に逝った。実はこのテのトラブルはよく聞いていたのだが、僕の絞りは今まで何の問題もなかった。よく考えてみたら所有期間は10年と長い、たいして使っていないや(笑)。

人間というのは本当におかしな生き物で、物事の受け止め方というのがその時々で180度違う。今回の絞り器トラブルは、普通なら「こりゃあ明日はダメだな」と感じるどころだが、興奮していた僕は違った。

「お前(絞り器)、今日まで待っていてくれたのか…。大役(マスターズ予選通過)する」ことになるウドン作り)は終わったぞ。ありがとうま…」

大馬鹿者である。だが、結果が出るまでは誰だって主人公だ。何気ない日常の中で、来るべき日に向かって少しずつドラマを紡いでいくのである。その気になった僕は仕掛けを作り、ハリまで結び始めた。せつなく絞り器が発してくれたビッグウェーブ到来のサインを見逃す事は出来ない。一緒に行くサンデーマスターズの水内氏との待ち合わせ時間は3時半。シャワーも浴びたい僕は、時計を気にしながら急いだ。当然睡眠は放棄、というより眠れない。釣行前夜のワクワクは、久しぶりだった。

12年前のダイワマスターズ93。今回と同じく椎の木湖で行われた予選で、僕は全国大会への切符を手にした。今回の二回戦を羨望の眼差しで見つめていた僕にとっては、我ながら信じられない記憶だが、そういう時代が僕にもあったということだ。そしてその年の全国大会は清遊湖で、これも今大会と同じである。10年ぶりに復活するマスターズと、トーナメントとしての復活を自問も自分というシンクロ。最高の舞台はすでに整ったかに見えたが、93年のマスターズでは大会直前に物凄いサインが出ていた。マスターズ常勝のあのカリスマ浜田優氏と、街でバツリ出会っていたのだ。スーツを着た氏の後姿を見たのは初めてだったが、へら鮒だけでなく専科の愛読者でもあった僕は氏だと確信。仕事中で車だった僕は、歩道を歩く氏を追いつき急ブレーキ。慌てて降りて氏の前に飛び出した。

「こんにちは！ マスターズ予選に申し込んだ江成といいます！ 全国大会では宜しくお願い致します！」
今思い出すとんでもないセリフで恥ずかしくなるが、氏と遭ったことで瞬間的に予選通過を確信した記憶がある。釣り中心の毎日だったから、本当に自信もあったのだろう。もっとも口に出している悪い若気のあたりということになるのか。ちなみに「はじめまして」ではなかったのは、その1年前に氏が率いるトップスタークラブの月例会に便乗参加していたからだ。氏が覚えていない筈もない。そんなことより浜田氏は災難だった。突然目の前に現れた男に進路を塞がれ、氏は思わず身構えた。そしてそのコンマ5秒後には、バカな若造のともんでもないセリフを浴びせられたことになる。氏は口をポカンとあけ、目をパチパチさせながら、状況を理解するのに数秒を要したようだった。そして、姿勢を整えたと軽くおじぎをし、「ごちうこそ。予選は頑張って下さいね。決勝でお待ちしていますよ！」

と、とても紳士的な言葉を残した。今回のマスターズは水内氏の車で行ったが、

毎週毎週氏の手で釣りに行っていたことを思い出し、とても懐かしくなった。現在の氏の愛車「ヴォクシー」に僕が乗せていたのは、今回が初めて。とんでもなく長い時間が流れてしまったようだ（そういえば、93年のマスターズも氏の車で行ったんだっけ…。いいぞ！ もっとシンクロしろ〜）。

14日の晩、仕事中だった僕の携帯が鳴った。慌てて出た。
「岡田君だ…。いったいどうしたんだ？ 僕は慌てて出た。」
「ネギマー本お願い出来ますか？」
「すみませんお客さん、ウチは2本からなんです。」
「何だとオ！ …で、マジ何よ？」
「明日ダイワつすよね？ 頑張ってくださいね！」
「はあ？ どしたの急に？」
「いやいや、頑張ってくださいねあと思っただけっす。」
「え〜？ まさか用件それだけ？」
「そ〜」

「ちよっとちよっとオ！ どうしたの〜？」
それから僕達はしばらく喋った。岡田君は自分からは言わないが、きつと寂しかったのだ。彼は前人未到のメジャー6冠というトーナメントモンスター。だが、出場できるトーナメントが限られてしまっただけ、伸ばせる記録も伸ばせない。参加することに「異義あり」。彼はいま、そういう立場にいる。

岡田君の気持ちはよく分かったが、だからって夢を乗せるのがオレなんかでいいのかよ？ こりゃ責任重大である。が、僕はプレッシャーのかけらも感じなかった。なぜならコケて当然、ミラクル期待の一発勝負と受け止めていたからだ。そしてミラクルの予感も十分にあった。浜田氏と街で再会とはいかなかったが、普通に考えれば岡田君からのエールはそれに負けないくらいレアな出来事な筈だ。全く個人的な話になるが、思い返せば95ジャパンカップ全国大会から続く岡田君と僕の怨念*を、ついに断ち切る日が来たのだと、断ち切るのオレなんだと確信し

た。大会前から原稿は出来たも同然である。

*里ちゃんD.O.O.O. …一般読者にとっては、全くもって意味不明だが、どうやらアニキと岡田氏との間には、何やら秘密があるようですな。このくだりは完全に岡田氏個人へ宛てたメッセージとなっており、誌面のこういった使い方はどうかと思うのでありますが、ま、それだけ「リキ入ったぜ！」ってことなんでしょう。サラッと流してやって下さいませ。

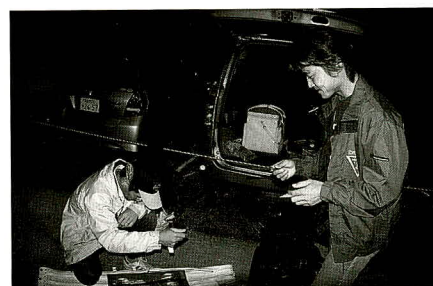
不発。

大会一回戦で僕が選択した釣り方は、悪名高い両ウドンでのメーターだった。全て終わって見て思うのは、「試釣もナシに選択していい釣り方なのか？」ということだが、万が一通過していたら何も感じなかったに決まっているので、深くは反省しないことにする。通る時は通るし、落ちる時は落ちる。そんなものだ。

椎の木湖での両ウドンは、あまりにも有名で実績も数知れない。地台さえあればまず崩れない両ウドンに対し、「禁止してくれ！」というボヤキがもっとも多い釣り場だと言え、そういう意味で僕らの選択は、まるっきり一か八かの大勝負ということにはならない筈である。ただし「いつでも効くか」といえば、集魚性が弱いぶん、他の魅工サを使った釣り方より安定度に劣るのは否めない。弱点を補える条件が揃った場合のみ、効く。

ケース1 ダンゴで活性化
ケース2 魅工サを打てば打つほどシラツとする漂い系

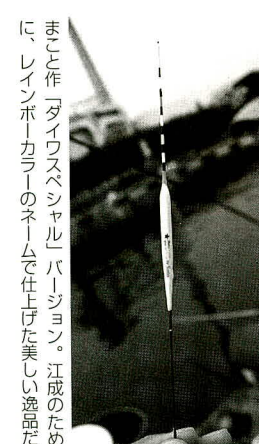
この両極端な状態こそ、両ウドンを打つ価値のある局面である。ケース1は、寄りを意識しなくとも適当に打つてりやそこそこには寄るだろうし、それがメリットでもある。寄せ過ぎず明確なアタリで高確率というパターンだ。ケース2は、つまり激シブ。粒子を散らしたらアタらないのだから、あまり寄せなくていい。というより釣ろうとすれば、寄せられないだろう。



男の約束を守った「色男」佐藤 誠氏より、マスターズ仕様「まこと作」を受け取る江成。マコトさん、そんなにあるんなら、里にも一本ちょうだいよ…。良い友人達に恵まれ、アニキは幸せものである



「里ちゃんホラ、空バリで打ってるだけでへらが寄ってきたよ！ 古い釣り場では結構効果があるんだぜ！」開始前、そう言って延々とタスキを繰り返す江成。ショボいテクニク？だが、この時のアニキは楽しそうだったなあ〜。あ、今回もお約束のレインボー柄を着てました。ちなみに掲載出来なかった先月も…(左上)



まこと作「ダイワスベシャル」バージョン。江成のために、レインボーカラーのネームで仕上げた美しい逸品だ

寄せるエサと釣り込むエサを別々に用意しないと釣り切れないかもしれない難地帯。上級者向き。ところが両ウドンなら組み立てがシンプルになる。これがメリット。で、当日の一回戦で僕のブロックはどうだったかといえば、自分の釣りに精一杯だったので正直周りあまり見えていない。ただ、横並びはあまり釣れていなかったのではないかと思う。アワセつきの人はいなかったと感じたし、それはすなわちアタリが散発だったということになる。となると、一回戦が両ウドンで有効なケースである可能性は消えた。両ウドンでもダンゴでもセットでもアタリの量に変わりがなければならぬ、ケース2だと信じて貫き通すしかない。

競技終了までちょうど折り返しとなる2時間を経過した頃、試合は大きく動いた。左隣の浅ダンゴセットが動きつきりになってきたのと同時に、僕の両ウドンは全く動かなくなっていく…。残念ながらケース2ではなく、ただ単に最初の2時間はへらがあまり動いていなかっただけだったのだ。動き出したらバラケるものへ好反応で、両ウドンではノービクということとは、いるのはわりとやる気のあるへらだが、残念なことに「薄い」ということになる。とりあえず浅いタナに限って言えば、寄せる必要のあるブロックだった訳だ。悶々としながら3時間目を浪費し、最後の1時間はついに僕もセットを打った。節操のない僕は、とりあえず左の彼のセッティングをコピー。長めの下ハリスは、スバリ先月の幸手と同じ遠巻き系セットだ。バラケを乗せてしばらくすると、へらの寄りは確認出来たがほとんど釣れない。へらはいくらでも見えるがアタリが遠い。毎回ではないものの、彼はバラケを早めに落として待っているとアタる。寄せた量の違いか？バラケの組み立ての違いか？探る時間はもうない…。よくよく冷静に見ればスレが多いし、彼もとても決まっているとは思えなかった。僕は訳が分からないまま試合終了時間を迎えた。左の彼も通過は出来なかった。何も得るものがなかったかのように見える一回戦だが強がりと言えば、「両ウドンはいつでも釣れちゃって釣り人はバカになるし、エサメー

カーが儲からないとんでもない釣りだから禁止にしようぜ！」というのは大間違いなんだと証明することは出来た事になる。



現在、マスターズには使用竿のメーカー制限はないが、以前の愛竿、初代「荒法師」を引っ張り出してきた江成。この竿で12年前に予選突破したのだという…

移りゆく季節の中で…。

午後、2回戦を背中に僕はセットの練習。しかし先月の幸手でつかんだつもりの「無理セッ」のヒントが、まるで通じない。魚は見えるほどいるがアタリにならず、時折出るイトスレでスレばかり。一回戦の時と何も変わらぬ。「上スレさせてしまっているのか？ いやいや、ある程度は必要だろうし、何やっちゃってへらは見えちゃうだろうに…」

途方に暮れた僕は竿を置き、裏を向いて2回戦を眺めることにした。さすがは一回戦突破の猛者達である。手返しのスピードは早いし、ウキを見つめる顔に迫力があり、オーラが出ているような気さえする選手もいる。釣況の方は、個人差はあるものの皆アワセつきりであった。そんな中、僕はある選手のイレバクに目を奪われた。彼は短竿メーターで、エサ付けを見るとウドンセットのみだった。

ハリスは10-15cmくらいだろうか。ウキの動きをよく見ると、かなり深ナジミさせてやり返しからの一発取りで連発している。あまり無駄な動きはない。ちょっとやさそつとじゃボケないのではないかと感じさせる、とてもいい動きだった。え、深ナジミ？ やり返しからのアタリとはいっても、まだバラケは十分ついている善なのに、一発取りで下バリを食ってくるということは…。無理セットではなく「普通のセット」じゃないか…。僕は再度彼のセッティングに目をやる。間違いなく大段差ではない。キチンとタナに入れて釣る限り、直近のへらの大半はダンゴを食い切れない状態であるならば、素直に短段差で接近戦に持ち込める。直近のへらを飛び越える必要は全くなかったのだ。

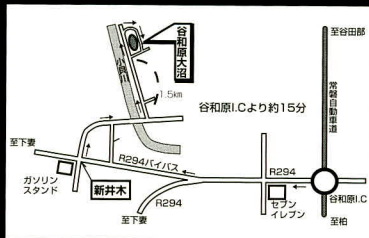
僕はハリスを詰めて釣りを再開。一回戦で用いたバラケへのカラを嫌ったアマ目の抜き系のバラケを持たせようと思えば、ウワズリ対策という観点から選んだ重くネバる素材が邪魔をする。エサを小さくして沈没は防いでも、大きな芯はやはりカラを呼ぶことを確認出来たし、寄せる必要のある釣りで小エサはマイナスだ。ここで僕は、表面をキチンと指の腹でこらしてエサ付けしないと余分なウワズリを招きそうな、最初のものより軽く芯の小さいポソバラケに作り替えた。すると、それまでのペースがウソのように釣れ出した…。

釣り込みながら僕は、いつの間にか季節が変わってしまったことを思い知らされた。僕の中の季節は前回釣行の幸手、つまり真夏の延長の無理セットで止まっていたのだ。あれからひと月。朝晩は冷える日もチラホラとは出てきたものの、実際のところ水温低下にどれほどの影響が始めているか分からないし、体感はいかげんな物差しだが、今回は冷たいとも思わなかった。もちろん今回の浅いタナでのセット地帯がフィッシングプレッシャーによるものだという可能性も否定出来ないが、そんなことは問題ではない。先入観なしにフレキシブルに動けない僕の鈍さが、問題なのだ。もっとも「決め打ち」っていうのはそれでいいんだけれど…。

大小、様々なへらがぎっしり！ カットケから底釣りまで、思う存分腕を磨いてください！！

アタる！ 釣れる！

谷和原大沼



- 入場料 1日2000円 半日1500円
女性・中学生以下 1500円
 - 営業時間
4~9月 平日 6:00~16:30
土日祝日 5:30~16:00
10~3月 平日 6:30~16:00
土日祝日 6:30~15:30
 - 規定 竿7~18尺 タナ・エサ自由
(生きエサ・一本バリ禁止)
- 〒300-2400 茨城県筑波郡谷和原村根新田228
☎0297-52-2763

大型新べらの強引を味わいに、ぜひお越しください！！

戦うお父ちゃん。

全く結果が出せなかった今回のマスターズ予選だが、「クテ当然」とは言ったものの、もちろん「狙っていた」のはここまで読んで頂いた読者の皆さんには分かって頂けると思う。決して適当な暇つぶしであつたに身を置いていたわけではない。しかし僕を応援してくれている読者の中には、

「それは分かるが、両ウドンという選択は、実はトーナメントの王道であるセットから逃げていくのではないかと？ 遊びだからロマンを求めるのは構わないが…」

と感じる方もいるかもしれない。確かに僕も、自分の中にそういう部分があつたのかもしれないとは思ふ。93マスターズでは運命的なものも感じたが、それ以前に自信もあつた。自信は日頃の努力で培われる。多くの参加者が選択する釣り方で抜き出るには、ギリギリのチューニングの積み重ねがモノをいう。結果として僅差の勝負になるケースも多い。となると、練習時間がとれない僕には厳しく、誰も選択しないような釣りで一発勝負というパターンを選択してしまつたのではないかと。正直に言つて僕には100%否定することは出来ないが、先月号での決意にあるように時間的な問題を理由にはしたくないのだ。そこで次回参戦するトーナメントでは、もっとも多くの参加者が選択してくるであろう王道の釣り方で勝負することを、ここに誓いたい。

仲間達には「一回戦は両ウドン決め打ち！」と公言してはばからなかつた僕ではあるが、実は一回戦開始直前まで迷つていた。出だしはセットに入った方が無難ではないかと。ところが僕の右隣の釣り人もなんと両ウドン！ 自信たっぷりの常連さんという風で、僕は「負けられねえ！」と覚悟を決めたのだつた。って、他人に責任転嫁している人がここにいます〜！

言い訳になるが、僕が両ウドンを選択した理由が勝負とはかけ離れた所にもあつた。先月号

「禁断の両ウドン」には、完全ノーマークだろうという僕の想像は裏切られ、かなりの反応があつた。よほど気に障つたらしく、匿名のメールが13通も来たのだ。おそらく同一人物もしくは同一組織だと思つたので、ほとんど病気である。内容はここで公開しないが、脅しに屈することは断じて出来ない。だいたい僕の言論の自



浅いタナの両ウドンでは、ドロやノリなどの添加剤はまず使用しない。マフシ粒の大小と手揉みで、ナジミと剥がれをコントロールしていく。ハリに刺してからマフシの入った容器へウドンを入れ、シエイク



表影台は遠い

一回戦終了。立ち上がれない江成。里が近付いても全く気付かなかった…



由を妨げるような足枷はないのに全く無意味な行動である。僕にとって業界で失うものは何もないのだ。…いや、あつた。へら鮎社や里ちゃんの立場に影響があるようなら、僕の言いたい放題は慎まなければならぬだろう。

匿名とはいえあの文章で不利益を被るとしたら、ある程度差し出し人には想像がつくし、ネット上ではコアドレスによって匿名性は無い。ちなみに我が家はサーバが自前なので、普通のご家庭より色々なことがすぐ分かつてしましますが何か？とだけは言っておこう(一)ニヤリッ。



この原稿を書いている今日10月23日は、神奈川県では参院補選の日。今日は仕事で只今休憩中の僕は、「投票しましよ〜」という選挙の車のアナウンスを聞きながら、車の中で原稿を書いているのだが、ちよつと字数が足りなさそうなので、先月の原稿でもいっきりに削除された部分を「レベレレ」まかまかこまかにある。

衆院選の投票日だつた9月11日、僕は取材で野田幸手園にいた。同行の仲間達と当然話題になつたのは、

「ここにいる何パーセントの釣り人が期日前投票を済ませているんだろうか？」

というものだつた。

「多分ほとんど行つちやないっすよォー！」

と、明るいヌーヌー君はもろろん棄権だが、僕は最高裁判所裁判官・国民審査が可能になるのを待ち、9月7日に区役所へ出向いていた。

「選挙に行つたか、行かなかつたか」という話題になると、僕は成人してから一度も棄権した事がないという話を必ずするが、たまに「それって自慢？」というリアクションが返ってくることもある。初めは理解に苦しんだが、最近ではこう答えるようになってる。

「今回も選挙権を放棄しなかつたことについて、ホツとした気持ちやちよつとした達成感はある」

〒270-1523 印旛郡栄町脇川96
 ☎0476・95・0409

管理釣り場 将監 (しょうげん)

■営業時間 4~9月 日の出~17時
 10~3月 日の出~15時

■料金 平日 1,500円 半日(11時~) 1,000円
 土・日・祭日 2,000円 半日 1,500円
 女性・子供 1,000円

■規定 竿8尺以上
 ■鯉、金魚釣り開設！
 営業時間 9~16時(平日、日曜共通)
 2時間1,000円(貸し竿、エサ一式込み)

釣番付

料金表

50名まで	55,000円
51名～75名	60,000円
76名～100名	65,000円
101名～125名	70,000円
126名～150名	75,000円
151名～175名	80,000円
176名～200名	85,000円

- ・仕上がりは黒一色です
- ・人数は成績表部分のみ数えます

書体見本

- 1.ぐりへの釣会
- 2.ぐりへの釣会
- 3.ぐりへの釣会

- ・番付をインターネットで公開できます(無料)

お問い合わせご注文はお早めに!

取扱店: 柴舟 03-3613-2727

ウキや小物の路入れに 転写シール

初回注文黒一色、300銘で8,500円～
2回目以降同じものをご注文の場合
は3,500円～

- ・8書体、8色を御用意しています
- ・角印も作れます

取扱店:

- 柴舟 (東京都江戸川区)
03-3613-2727
- 佐伯釣具店 (神奈川県川崎市)
044-911-3722
- SANSUI川づり館 (東京都渋谷区)
03-3499-5025
- フィッシング中原 (神奈川県川崎市)
044-711-8266
- 鮒仙人 (神奈川県川崎市)
044-287-7470

お問い合わせ、ご注文は各取扱店
または下記HPまでどうぞ

office27
あとりえぐり

http://www.office27.com
E-mail:info@office27.com

ても、他人に自慢するつもりは全くない。自慢というより自己満足だ。

すると時には、「国民の義務だからね…。君は偉いよ。ハイハイ」という捨て台詞も戴いてしまうことがある。きちんと投票に行くことに、「優等生ぶりやがって」というイメージを持つ人々がいるということなのだ。困った話である。こういう人達は、給与天引でなかったら年金も税金も払わない人種なんだろうか。いや、本当は「選挙に行かなくちゃ」とは思っているが、たまたま僕のような人間に出会ってしまい、「今から宿題やろう」と思ってたのに、やる気なくした！ もうやーらないっ」ととヘソを曲げてしまった「のび太」なんだと信じたい。

「国民の義務」は、全くその通りである。だから義務を果たしただけの僕はちっとも偉くはないし、僕の場合は義務感というより、むしろ脅迫観念にとらわれている気がしないでもない。歴史的に見れば、万人に選挙権が与えられるようになってからまだ長くないが、大戦後にアメリカのお節介で手に入れた権利ではない。偉大な先輩達が血と汗で掴みとった権利である。無駄にするわけにはいかないのだ。

ごく最近の新しい近代と、大昔の暗黒時代とを比べて時間の長短を論ずることに、違和感を覚える人もいるかもしれない。大昔はゆったりとした時間が流れ、密度が低く比較にならない。と。僕もそんな気がしないでもないが、世界に

目を向ければ、紀元前から高度な文明はいくらでも存在したし、地球的に、いや宇宙的に見れば、そんな密度の差はない。そしてどの時代も必ず終わりがくる。国内にも一度目を向けてみれば、江戸時代は300年も続いたが、それでも終わりがくることを予想した庶民がどのくらいいたろう。

「おまえがそこまで心配しなくて何も変わらねえよ」

システムが高度に、そして複雑に絡み合った現代社会においては、大きな変化はないのかもしれない。しかしこれは、忙しい現代人だからこそその感覚なのではないかと思うのだ。「自由、平等、平和」に見えるお気楽日本だが、ラッキーな時代に生まれた幸運に気付いていない人が多いのではないか。この先どうなるかは全く分からないことを、歴史は教えてくれている。

僕が最高裁判所裁判官・国民審査にこだわったのは、権利を放棄したくないというただそれだけの理由からだった。新聞もロクに読まない僕にとつて、罷免したい裁判官がいるわけない。僕は誰の名前にもチェックせず、そのまま投票した。やっつてもやらなくても結果的には同じ。「バカじゃないの?」という声も聞こえてきそうだが、白票と棄権は意味が全く違う。衆院選挙だってそうだ。今回は白票でこそよかったが、僕には日頃から特別に支持する政党はない。白熱した今回の選挙。アメリカ人の友人は

「9・11」という数字の扱われ方に不満を持つたそうである。たまたま同時多発テロと同じ日付けなだけだと僕は思ったが、「9・11衆院選」ではなく「9・11」という表現単独で選挙を指し示すのはいかなるものか、と彼は言うのだ。なるほど、言われてみると僕も少し気になってきた。「9・11」には、今回の選挙以前にすでに大きな意味があり、多くの視聴者の頭に刷り込まれている。それを利用してよりインパクトを強いものしようとしたのなら、数多くの犠牲者や遺族の方々に大変失礼ではなかるうか、との頻度で使われていたのか僕には分からないし、意図的に使ったに違いないと確信出来るほどニュースも見ていない。当然、報道側の真意も分からない。ただ今回勉強になったのは、物の見方は本当に難しいということだった。

今回の参院補選は10月21日の期日前投票で済ませた。開票しないとわからないが、おそらく前回の衆院選より低い投票率になると思うし、そうなければきっと自民はまた勝つだろう。普通に考えれば白紙委任ではないことを示すよいチャンスであり、衆院選での圧勝に嫌気して反動票が多くなる善のだが、メディアで煽らないと誰も選挙へは行かない。一般市民の関心はそんなもんだ。行くのは熱心な党員や信者のみであり、本当にお気楽な日本だと思う。

投票率まで左右してしまうメディアの影響は本当に恐ろしい。自分の意志で行動したのが、それとも流されているだけなのかの判断もつかないほどに日常生活に溶け込んでくる。特別な技術を用いなくてもサブプリミナルな効果は絶大なのだ。この国でもっとも効果が高いのは間違いなく「史観」である。サッカーワールドカップでは日の丸を振りかざしておきながら、「日本は悪い国だから、戦争には負けて良かったんだ」と平気で言わしめる「常識」。冷静に考えればおかしいじゃないか。負けていい戦争などあるはずがない。

僕のことを「あいつは右翼だから危険だ」と片付けるのは結構だが、僕自身はバランスのとれた思考と判断を常に目指しているつもりである。ある事案に対し、複数のニュースソースを検証する余裕がないのなら、とりあえず鵜呑みにはしないようにする。最近の僕はこればかりだ。最後に、最近読んだ本のお気に入りのフレーズを引用しておきたい。

「歴史というのは、国家と個人がそれぞれに力の限り生きてきた営みが集まった大きな流れです。戦争も平和もその中に生じます。その間、戦略の是非、外交の巧拙はあっても、倫理的な是非善悪は論じ得べくもありません」(岡崎久彦著 百年の遺産 日本近代外交史73話より)

へら鮒釣りの楽しさを追究し続ける…

No.480 Dec.2005

へら鮒

Monthly fishing magazine herabuna

12

平成17年12月1日発行 (毎月1日発行) 第40巻 第12号 定価415円(税別)三栄新聞社発行

“勝ちに行け。”





まとまりがよく、
ゆっくり沈む、
小さな粒の「粒戦 細粒」。

「粒戦」よりも、粒の小さな「粒戦 細粒」。小粒だから、バラケエサのまとまりが良好。沈むスピードもゆっくりで、極度の食い渋り時に威力を発揮します。そのままバラケに追い足しできるので、使い方も簡単。また、「粒戦」の調整にも便利。もちろん「粒戦」の特長である、強い集魚力、へらの活性を高める効果、ウズリを抑える効果も備えています。

●粒戦 細粒 (つぶせんざいりゅう)
350g チャック袋

冬のセットに、爆発力を。

そろそろ、セット釣りのシーズン。細かい気配りが必要なこの釣りは、上バリのバラケ方や重さなどに、細かく感じているへら師も多いはず。そんな中、セット釣りに爆発力をもちたらし、より多くの食いアタリを出させるための、競技用スーパーペレットでも、そこでおすすりめしたいのが、マルキューの「粒戦」シリーズ。



セットの釣りを強化する、
粒状ペレット「粒戦」。

セットのバラケに加えて使う、粒状ペレット「粒戦」。ペレット独自の集魚力に加え、バラケからポロポロと落ちる様子で、へらの視覚にも強くアピール。活性を高め、くわせエサへの明確なアタリを連発させるので、食い渋る冬でも、爆発的な釣果が期待できます。適度な重さがあるので、ウズリを抑えやすく、早いアタリを攻めているのも特長です。

●粒戦 (つぶせん) 350g チャック袋

2006「横浜」開催
2/10、11、12 at パシフィコ横浜
国際釣り大会2006

丸マルキュー株式会社
〒363-8509 埼玉県桶川市赤堀2-4

お問い合わせ 本社・桶川工場:048-728-0909 大阪支店:072-824-0909
四国営業所:0877-44-0909 九州営業所:0942-82-0909
ホームページアドレス <http://www.marukyu.com/>

釣り場でエサに困ったら
Eメール・ホームページ
<http://www.marukyu.com/>

定価 1000円 本体九五二円

